《Voice》山の会が能登半島でボラ活動をするわけ　理事 林憲男

大阪労山の各会が白馬岳や天狗岳を登っていた５月上旬、私たち八尾山の会３人は石川県七尾市にいた。能登半島地震で被災を受けた方へ災害ごみの撤収作業をしていたからだ。能登半島でのボランティア活動は今回が２回目で、初回は３月末に志賀町で活動した。

私たちは登山という趣味をもった人で構成する団体である。地震や水害で被災された国民を救うなんてことは、会則のどこにも書いていない。せっかくの日曜日、慈善活動なんかせずに行きたい山に登ればいいのである。

なぜ、ボランティア活動をするのか。理由は二つある。能登半島支援以前に当会は、八尾障害者ハイキングや高安山クリーンハイクの市民行事を継続してきた土壌があった。さらに集中豪雨で被災した倉敷市真備地区へのボランティア活動を６年前に経験していた。そこで経験してわかったことは、やってみると楽しいのである。いろんな人たちと出会えるからである。

楽しいことは、ふだん活動している山仲間と共有すれば、楽しさも倍増する。行政が遅々として進めていない復興対策を、われわれ民間人が側面から支援するのだという命題を大上段に構えるだけなら仲間は集まらない。

二つ目の理由は、山登りする人の身軽さや行動特性にある。幸か不幸か、当会は高齢者の集団である。子育てに忙しい時期は過ぎた。日程的に融通が効く。しかも体力がある高齢者だ。ヘルメットやシュラフ、登山靴も自前で持っている。石川県ボランティア対策本部は、応募者に安全靴を持参するように求めている。安全靴は持っていなくても、厚底の登山靴を履けばガラス破片が散乱した現場や釘が突起している現場で作業できる。

地震発生から数ヶ月経ち、県内ではボランティア受け入れ態勢が整ってきた。１回目は金沢市のホテルに前泊したが、２回目の５月は七尾市のテント村を利用した。登山家の野口健さんが代表を務める NPO 団体と岡山県総社市などが、ボランティアが宿泊できるテント 100 張を野球場に設営したのである。テント泊できるのは私たちとしては好都合だった。

だから、山の会はボランティア活動をする。七尾市の時は会内で希望者が６人出たが、受け入れ側が定員に達し３人に絞らざるをえなかった。第３次隊はメンバーを替え能登へ派遣する計画を練っている。七尾での活動は中路報告（次ページ）に詳しい。　　（はやしのりお、八尾山の会事務局長）